

ダウン症児の内面の発達に関する研究

—連絡帳の分析を通して—

今 野 和 夫

A Study on the Development of Mind in a Child with Down's Syndrome through the Analysis of Communication Notebook between Mother and Teacher

Kazuo KONNO

The purpose of this study was to investigate the development of mind in a retardated child.

The subject was a boy with Down's syndrome. He is enrolled at a normal elementary school. His mother has written his utterances into communication notebook between mother and teacher almost every day. Those utterances during four years from entrance into a school were analysed.

I could found self-control, independence, self-cognition, planning, other-control, other-cognition, and feeling as domain of mind in the subject. The developmental process of each domain during four years was confirmed.

1. はじめに

人間には内面（心）というものがあり、それは人間の行動（たとえば発話、コミュニケーション、学習、遊び行為）を根底で支えている。内面は複雑多様なものであるが、それには例えば自己統制（がまんしたり、逆にがんばったりして自分の行動を意識的にコントロールしようとする心）、自立（人からの援助を拒み自力で行動しようとする心）、自己認識（自分についての理解）、価値観といった領域が含まれよう。また、感情も、内面の欠かせない領域であろう。

別府（1993）¹⁾は、ある自閉症幼児における、一人では楽しめるのに仲間が入るとプールから出てプールサイドをうろうろする行動について、「…したいけどできない、できないけど…したい」という「…したい」意欲を伴った前向きの心の揺れ（葛藤）の育ちによるものと捉えるなどして、自閉症児の行動の奥底にある内面を

見つめることの大切さを指摘している。清水（1994）²⁾は、自由遊びや共同製作といった生活場面での言葉を分析することにより、聴覚障害幼児における自発性、共感性、協調性、自律性といった心の育ちを捉えることを試みている。Kernanら（1989）³⁾は、「なんとかして自尊心を守りたい」という気持ち（つまり自己感情の育ち）が、自分の得意な話題に会話を無理にもっていく、当面の話題に関係のない話をいきなりするといった、健常者に不快や戸惑いをもたらすようなコミュニケーション行動を精神遅滞者に多くもたらしてしまっている、と指摘している。

こうして、障害児の行動について、子どもの内面のありようや発達との関連で捉えようとする研究や、その行動から内面の発達を探ろうとする研究が見受けられるが、その数はまだきわめて少ない。障害児の内面についての研究は非常に遅れているのである。ちなみに、健常児の場合も同様のことが言える。

そして、精神遅滞児の内面との関連で、例えば以

下のような課題の究明がほとんどなされていない。

・精神遅滞児の内面について、就学前期、児童期、青年期、成人期、老年期といった人生の各時期に、どのような発達の様相が認められるのであろうか。またその個人差はいかほどのものであろうか。

・精神遅滞児の内面の発達には、種々の要因、例えば統合保育（教育）、施設生活経験の有無、親の接し方、地域の活動（おもちゃ図書館や青年教室など）への参加、就労、身体的変化などが、それぞれ、あるいは関連しあって、どのように影響しているのであろうか。

・精神遅滞児において、その内面の諸側面は、相互にどのように関連しあっているのであろうか。例えば、近年「自己決定」する権利を障害児から奪わないようにとの指摘が各所で強くなされているが、この自己決定しようとする気持ちの育ちは、他者についての認識や、やさしさ、思いやりといった心情の育ち、価値観といった側面にどう影響するのであろうか。ちなみに、このような点を考慮に入れずにただ「自己決定権」の重要性を主張するだけでは、欧米の流行の理念を単に受け売りしているに過ぎないであろう。

・精神遅滞児において、内面の状態や育ちは、日常生活の中での種々の行動やそれに関する問題に、どれほど、そしてどのように影響しているのであろうか。自尊心とコミュニケーション行動の関連についての Kernan らの指摘を先に挙げたが、このような内面の育ちと行動との関連についての研究・分析は、精神遅滞児から安心してつき合える親しい存在として受け入れられるよう配慮しつつ、生活の中のできるだけ多くの場面に立ち合いながら、行われるべきである。

・内面を重視した社会的サポート、指導、および教育の在り方について。

例えば今日、「余暇の充実」、「社会参加の促進」といった目的の下に、行政機関やボランティア、養護学校などの種々の団体が主催して青年学級が実施されているが、参加する精神遅滞児の心の発達・形成への深い配慮は、青年学級の在り方を考える上で欠かせないものと言えよう。

また、通園施設や学校などの種々の教育機関においてコミュニケーションの指導を行う際に、コミュニケーションやその問題（例えば、自分からやりとりを先導できない。話題をすぐ変えてしまう）に内面の状態や発達が関与していることがどれほど考慮され、またその考慮がどのように指導に生かされているのであろうか。自発力（initiation）を高める、特定の話題で多くのやりとり（turn taking）ができるようにするといったスキル面での指導に、偏り過ぎてはいないだろうか。

さらに、性教育なども、精神遅滞児のそれまでの内面の発達といったものを十分に把握しないままに実施しているのではないだろうか。また、内面の発達の援助に結びつけずになされてはいないだろうか。

ところで筆者は、1984年3月に、生後4ヶ月のダウン症の男児（以下D君と記す）と出会った。現在小学5年生のD君は、就学前の3年間の幼稚園生活を健常児とともに過ごし、小学校も一年生の時から普通学校の普通学級に在籍してきており、特殊学級での教育経験はない。筆者とD君およびその家族との関わりは現在まで続けられているが、母親から最近、小学校入学以降の各学年時に学級担任と交わされた連絡帳を貸していただいた。母親は、新しい学年が始まるたびに、連絡帳を自分の日記のごとく使わせてもらう旨の了解を担任に得たうえで、家でのD君や家族の生活の様子、母親自身の様々な思い（悩み、不安、D君の成長に対する喜びや驚き、など）、D君の地域での生活の様子（登下校、友との遊び、絵の教室、よその家を訪れたときなどの様子）を、D君がその都度発した言葉も可能な限りそのままの形で紹介しながら、実にこまやかにほぼ毎日書き留めてきている。このような連絡帳に対する一年時から四年時までのクラス担任の対応は各様であるが、どの学年の担任にとっても、D君とその家族のことを広く深く理解するのに連絡帳が大いに役立っていたと思われる。

本研究では、小学校の普通学級に在籍するダウン症の男児を事例として、これまで特定領域

との関連でのみ、あるいは健常児との比較において横断的にしか、明らかにされることのなかった精神遅滞児の内面について、連絡帳の中に記された彼の言葉を主たる手がかりに可能な限り包括的、かつ縦断的な発達把握を試みることである。すなわち、小学一年生から四年生までの四年間に、一人のダウン症児の内面にどのような内容、およびその変化が認められるのか、明らかにしたい。このことは、先に挙げた精神遅滞児の内面に関連する諸課題を明らかにする一歩としても意義あるものと思われる。

II. 対象児 (D 君) について

1983年(昭和58年)の8月22日に2,500グラムで生まれ(正常分娩)、トリソミー型のダウン症をもつ。一歳ころまでは消化不良や肺炎が再発するが、その後は比較的元気に育っている。心臓に軽い疾患が認められているが、手術を要するほどではなく、健康を配慮して日ごろの運動量を押さえるというようなことはしていない。ダウン症による筋肉の低緊張が関係しているのか、小学校入学後も何かに夢中になっていたり、歯の治療などで精神的に緊張したりする場面で大便をもらしてしまうことがあった(小学四年生ころまで)。

第二子であり、家族は他に5歳上の兄と両親。父親の仕事の都合で、出生地の秋田市からまず福島市へ(1986年8月、3歳)、そして仙台市へと(1988年、4歳7ヶ月時)転居、さらに仙台市内において一度転校(1993年に4年生に上がるとき)している。母親は、D君の発達と幸せにとって、幼児期から地域の中で障害のない友達と豊富な関わりを持ち続けることが望ましいと考え、小学校入学前の3年間の幼稚園も、小学校入学後(現在5年生)も、健常児とともに普通クラスの中で生活させている。小学校に入学した5月、親は自宅を週一回開放して子ども図書館(大ちゃん文庫)を開催し、D君の友達や近所の人たち(障害児とその親を含む)が気軽に、しかも楽しみにして訪れられるような雰囲気作りに配慮している。D君の絵本やお話し

に対する興味や認識は、同じ年齢の一般の健常児を越えており、自分からみんなにお話しを聞かせること(ストーリー・テリング)も時にある。養護学校などに入れば関わる機会が遠のいてしまいがちな町内子ども会の活動(例えばソフトボールチーム)にも、積極的に参加してきている。

筆者は、生後4カ月から2歳6ヶ月まで、ほぼ毎月一回、大学やD君の家で発達検査(新版K式発達検査)と親子遊び(特に初期のごっこ遊び)の観察⁴⁾を実施し、それに基づく話し合いを母親と行った。話の内容として特に強調されたのは、D君の発達・人格形成・豊かな生活にとつての、そしてD君の発達を理解する手がかりとしての、ごっこ遊びの大切さである。母親は、筆者が定期的に関わっていたときも、父親の転勤に伴い他県へ転居してからも、ごっこ遊びの言わば栄養となる経験(例えば、食事の用意などの家事を見せたり、それに参加させる。絵本を読んであげる機会を作る)とごっこ遊びを誘い出す材料(例えば手作りの寝具、手作り絵本)を、日常生活の中でD君に豊富に与えるよう、配慮してくれた。

D君の幼児期の発達について若干触れると、座位(30分以上一人ですわる)は1歳、一人立ち1歳10ヶ月、独歩開始1歳11ヶ月。CA2歳5ヶ月(886日)において、新版K式発達検査による発達指数は68、発達年齢は姿勢・運動領域616日、認知・適応領域603日、言語・社会領域581日。2歳5カ月の時点で、物を差し出すときに「ハイ」、「ホア(ホラ)」といった発声をするものの、一語文の段階に入っているとは言いがたかったが、象徴的行為は豊かに認められた。すなわち、遊びの計画や見立てを言葉であらかじめ命名することはないが、自分と人に関連させての複数事物の関連づけの使用や、自分に関連させての単一事物の見立て使用が見られている。前者は、例えば次のようなものである。

スプーンでカップからすくって飲むふりをし、そのカップからテーブル上の別のカップに注ぐふりをする。そのカップを、そばにいる母親に「ハイ」と差し出す。

また後者は、例えば次のようなものである。積み木をつかんで口に近づけ、まず口をとがらせて息を吹きかけ(熱を冷ますふり)、それから口に積み木を触れさせて口を少し動かす。積み木を元の場所に戻す。

三歳ころからの言語表出面の発達は目覚ましく、4歳半ころに三語発話(例えば「ママ、ミズ、チョーダイ」)が出現、小学校入学時には、電話相手とも、聞き取りやすい構音で自由かつスムーズに会話して自分の意向を伝えられるようになっていく。反面、数概念の把握は難しいものがあり、5以上の数について、数えから量概念への転化(例えば、イチ、ニ、サン…シチ、シチニン人だ)や序数としての認識(例:「イチ、ニ…ゴ、ゴ個め」)が可能となったのは、三年生も後半に入ってからのことである。

小学三年生から日記を書いているが、四年生に学年が上がると、自分の色々な気持ちが強弱もつけて書かれるようになっていく(はずかしかった。くやしかった。…したいです。もっとも…したいです。など)。以下に、4年生の1月20日の日記をそのまま記す。

「きょうは、お父さんがおそいのできみしいのではやくかえってほしいです。パパとサッカーゲームであそびたいです。おわり。」

III. 結果と考察

一年生から四年生までの連絡帳の中に母親が書き留めているD君のたくさんの言葉から、内面を捉えることを可能にしてくれると思われる言葉を抽出し、分類を試みたものが表1～表8である。表中には、数は少ないが、D君の内面に関わる母親や担任の言葉も記されている。それには、「by 母親」とか「by 担任」と付されている。また、D君の言葉の最初や後ろの()内に、発話場面などについて簡単な説明が添えられているものもある。D君の言葉に出てくる教諭の名前は、イニシアルにした。さらに、言葉の前には、それが発せられた日付が記してある。

D君の言葉を手がかりとして捉えられたD君の内面は、自己統制、自立、自己認識、計画、

他者統制、他者認識、感情の七領域であった。他にも、興味などの別の領域に位置づけられると考えられる言葉もあったが、発達的な考察をしようほどの数は抽出できなかった。そこで、以下では先の七つの領域を中心に、発達的な視点も加えながら少し詳しく見ていきたい。

1. 自己統制

自己統制を反映すると思われるD君の言葉が、表1に記されてある。

一年時において既に認められる自己統制の内容は、以下のようなものである。

①負の感情を自ら乗り越えようとする自己統制

例: 痛いけどがんばっていく 6/6

②自分の成長についての認識に支えられた自己統制

例: 僕は大きいんだからもう泣かないよ 5/18

僕はもうすぐ二年生だからがんばって歩いて帰る 1/29

③行動の判断を他者に委ねようとする言わば他律的な自己統制

例: 先生、お水飲んできていい? 9/14

二年時においては、①(例: 10/1)、②(例: 11/12)とともに、次のようなものが認められる。

④他者を意識した自己統制

例: (登校時に)お母さん、K先生が待っているから早く行くよ 10/4

三年時になると、新たに以下のようなものが認められる。

⑤したい行動を先に延ばして別の行動に取り組もうとする自己統制

例: (夜寝ようとする)僕、仕事があるから、まだ寝られなかったんだ。早めに終わるからお母さん先に寝ていてね 2/19

⑥遊びのルールに従おうとしての自己統制

例: (おひさま文庫にて)あめ玉がどっちの手に隠されているかを当てる遊びではずれるとダダをこねてルール違反をすることが多かったが、今日は四回も並んでやっと手に入れた by 母 6/25

表1 自己統制

<p><一年></p> <ul style="list-style-type: none"> 5/18 僕は大きいんだからもう泣かないよ。 6/6 痛いけどがんばっていく。(昨日自転車で転ぶ。次の日の登校時の言葉) 6/12 がまんしてトイレへいくんだよね。(家にて) 6/27 僕着替えはいらさないの、おもらしをしないんだから。(登校時) 9/14 (学校で「先生、お水飲んできていい?」と言う。by 担任) 9/14 (学校で「先生、おしっこしてきていい?」と言う。by 担任) 11/16 (歯科医での抜歯を涙を流しながらもがんばる。by 母親) 12/9 僕はもうすぐ二年生だからがんばって歩いて帰る。(登校時) <p><二年></p> <ul style="list-style-type: none"> 10/1 お母さん、僕疲れても走るからね。(運動会にて) 10/4 お母さん、K先生が待っているから早く行くよ。(登校時) 11/12 僕は二年生だから泣かないよ。(約一年ぶりの歯科医にて) 11/28 僕は二年生だから泣かないよ。(歯科医にて) 12/9 お母さん、手を握っていてね。そしたらぼくががんばれるから。(歯科医にて) 12/9 先生、ぐるぐるまきはしないでね、僕だいたいようぶだから。(歯科医にて) <p><三年生></p> <ul style="list-style-type: none"> 5/30 僕、試験があるからまだ寝られないんだ。お母さん、先に寝ていていいからね。 6/25 (他家で開催のおひさま文庫にて。あめ玉がどっちの手に隠されているかを当てる遊びではずれるとタダをこねてルール違反をすることが多かったが、今日は四回も並んでやっ手に入れた。by 母親) 8/27 お兄さんと一緒に勉強しなくっちゃ。(家で) 8/27 (「いやだ」と言うとき、「今はこれをするんだよ。〇〇を留意してやりましょう」と言う取り組みでくれる。by 担任) 2/19 僕、仕事があるから、まだ寝られなかったんだ。早めに終わるからお母さん先に寝ていてね。(夜一緒に寝ようとしたとき) <p><四年></p> <ul style="list-style-type: none"> 6/17 (ルールとマナーが理解でき、「めんどうだけれどがまんしてやろう」という気持ちが起きている。by 担任) 6/30 僕は四年生だから一人で待ってられる。(家にて) 6/30 (「四年生だからクレヨンしんちゃん語は使わない」「四年生だから……しない」「四年生だから……する」というように、「四年生」をしっかり自覚し自分に言い聞かせている。by 母親) 10/13 日直は早く行かないとだめだ。まりえちゃんに言われたんだから。(朝の用意の時) 10/14 今日は日直じゃないからゆっくり行ってもいいんだ。(朝の用意の時) 2/24 僕先にトイレに行くからね。(歯科医にて) 2/24 先生、ぐるぐる巻きにしないでください。僕もうすぐ5年生だからがんばるから。(歯科医にて) 2/24 (おひさま文庫で小さい子と三対一でやったら負ける。負けても素直に受け止める。ゲームなどで自分が負けてもそれを受容できるようになった。四年生の成長の一つ。by 母親) 3/14 (今朝起きるなり)本読みする!(読み終えると)おっしゃ、これで怒られないぞ。(「だれに?」と聞くと)のりこは、「本読みカードは」って怒るんだ。 3/23 5年生なんだからやらなくっちゃ。 	
--	--

四年時には、⑥に関連したものと言えるが、ゲームなどで自己の負けを認め、受け入れられるようになってきている(2/24)。また、②(例:6/30)、④(例:3/14)の他に、新たに以下のような自己統制も認められる。

⑦役割を意識した自己統制

例:日直は早く行かないとだめだ。まりえちゃんに言われたんだから10/13

2. 自立

自立(表2)については、自己統制に関するような細分が困難であるが、母親による送り迎えを拒否して自分で登校したり下校したり(例:一年9/29, 3/1, 二年10/31)、また友達の家へ行こうとしたりする気持ち(二年2/3)や、宿題や工作、楽器の練習などを、助けを借りずにや

ろうとして自分から母親を遠ざけようとする気持ち(例:二年11/6)が二年時までに認められる。そして三年時には、母親からの関与(D君の課題の進行状態の点検、指示など)を、より具体的な形ではっきり拒もうとする気持ち(例:5/21, 6/12, 11/13)とともに、相手の立場も考えて自立しようとする気持ち(例:5/22)とか、地域に自力で参加しようとする気持ち(4/11)も認められる。

四年時には、「初めて一人で留守番をする7/13」ことが可能となっているが、自立の形にも変化が認められる。すなわち、課題に取り組む際に、一年時のように相手を自分から遠ざけようとするのではなく、相手から自分を遠ざけようとしている(5/12)。

自立心の育ちには、次に述べる自己認識の発

表2 自立

<一年>

- ・ 9/29 僕一人で行ける。(登校の途中)
- ・ 9/29 いいの、これで。(学校での工作。担任の提案に対して)
- ・ 11/6 おかあさん、あっちへ行って。一人でやるんだから。(鍵盤ハーモニカの練習時)
- ・ 11/26 僕一人で行ける。(子ども会のレクリエーションの集合時)
- ・ 12/1 一人でやるから、おかあさんあっちに行って！(宿題)
- ・ 12/6 一人で僕の机でやるから、おかあさんあっちへ行って！(宿題)
- ・ 2/4 そうだよ、僕二年生になるんだから。(一人で下校できたことをほめたとき)
- ・ 3/1 おかあさん、来ないで！(下校時の校舎へのお迎えに対して)

<二年>

- ・ 10/2 僕がばって帰る。(一人だけでおひさま文庫へ)
- ・ 10/31 お母さん、僕一人だけで行けるから来なくてもいいよ。(登校時)
- ・ 2/3 お母さん、僕ははるちかくんの家へ行くんだから帰って！

<三年>

- ・ 4/11 (このごろ一人で買い物をしたいよう)
- ・ 5/21 お母さん見ないでね。(日記を、母に背を向けて書く)
- ・ 5/22 母さんは母さんで考えてよ、僕は僕で考えるから！(日記を書くとき)
- ・ 5/22 見ないでよ。(日記を書くとき境に箱を立てて)
- ・ 5/24 教えないでよ、僕できるんだから。(日記を書くとき)
- ・ 6/12 教えないでよ！僕一人書くんだから。(作文を書くとき)
- ・ 9/25 (宮澤賢治祭り。私と手をつなぐこと、私がそばにいることさえ拒否)
- ・ 10/27 電話をしないで一人で帰るからいらない。(登校時に、名札の中に10円玉を入れてやろうとしたとき)
- ・ 11/13 僕は言われなくても一人でできるよ！(歯磨きを指示したとき)
- ・ 2/6 教えるな、いちいち教えなくてもできるんだから！

<四年>

- ・ 5/12 僕、自分の部屋で書くからお母さん来ないでね！(作文帳を書くとき)
- ・ 7/7 (昨夜初めて自分の部屋で布団を敷いて寝る。母も一緒だが。by 母親)
- ・ 7/13 (昨日、初めて一人で留守番ができた。by 母親)
- ・ 9/1 僕は一人で寝るから僕の部屋に布団を敷いてくれ。
- ・ 11/5 お父さんと僕は男子用ふとんに寝るから、お母さんは女子用ふとんに寝てね。

達、交友関係や地域での経験の積み重ね、生活環境の変化(例えば、広い家に引っ越したために自分専用の部屋ができる)、身体機能の変化(例えば、お漏らしをしなくなる)、クラスメートや担任との関係の深まりなど、多様な要因が関わっているのであろう。

3. 自己認識

自己認識(表3)について見ると、一年時にすでに自己の生活の振り返り(自分に関してその日生じたことや自分がしたこと、あるいは感じたり思ったりしたことを振り返ること)や成長の意識(例:僕もそろそろ二年生だよ(友達と肩を並べて)11/1)、自己評価(例:僕、八の字はうまく書けないんだよ10/27)、時間軸への自己の位置づけ(例:大きくなったら何になりたい?と聞かれて「おひさま文庫になりたい」2/19、2/7 by 母親)が認められる。三年時には、自己の生活の振り返り、自己評価に加えて自己の命名が認められ、四年時になると、生活の振り返り、自己の命名、自己評価とともに、自己の社会的位置の認識(例:(車中で)二組は楽

しいけど、僕は一組の子なんだ12/17)と自己の思考状態の自覚化(例:母さんの言っている意味がわからないよ9/14、9/14 by 母親)が新たに可能となっていることが示唆される。

「生活の振り返り」の内容を見ると、一年時において、他者(特に担任)との関わりを「能動態」よりも「受動態」として振り返ったり(例:僕ね、先生におしりペンペンされたんだよ7/6)、自分の失敗(お漏らし)をその時の気持ちまで含めて振り返ったり(例:僕ね、途中でうんちがしたくなって、がまんできなくてしちゃったの10/4)している。その後学年を重ねるにつれて、学校での様子(席替、学習、遠足、朝会、体育等)を、そこでの教師や友達との関わりの内容や、自分の気持ちも含めて、より詳しく振り返ることができるようになっている(三年9/5、9/8、四年4/13、10/26、2/3、2/17)。

「自己評価」について見ると、一年時から四年時までを通して、自己の能力に関する評価が多く見られる(…できる/…できない)。肯定的評価(僕は強い/僕は…できる)に関しては、自分の成長についての自覚がその大きな根拠とな

表3 自己認識

<p>〈一年〉</p> <p>*生活の振り返り</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 5/23 先生におこられた。 ・ 7/ 6 僕ね、先生におしりベンベンされたんだよ。 ・ 7/ 6 僕じゃなくてゆうきくんがおこられたの。 ・ 9/ 8 僕A先生におこられたんだ。 ・ 10/ 4 僕ね、途中でうんちがしたくなって、かまんできなくてしちゃったの。 ・ 10/26 もらっちゃったの、だから歩けなかったんだ。 ・ 2/21 僕が何もしないのに、○○ちゃんが(僕に)……した。 ・ 2/23 おかあさん、僕我慢できなかったんだ。 <p>*成長の認識</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 11/ 1 僕もそろそろ二年生だよ。(友達と肩を並べて) ・ 2/28 僕はもうすぐ二年生だから黄色い(ランドセルの)カバーはいらない。 <p>*自己評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 5/18 僕は一人で帰ってきたんだから。 ・ 9/ 6 僕だって書けるんだから。(年少の子どもが漢字を書くのを見て) ・ 10/27 僕、八の字はうまく書けないんだよ。 ・ 11/ 6 僕だってきらきらぼしをひけるんだから! ・ 11/26 僕だってできる。 ・ 11/29 今日はバツだった。 ・ 2/14 うん、できる! (先生に「お手伝い、いっぱいできる?」と聞かれて。by 担任) <p>*時間軸(過去-未来)への自己の位置づけ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 12/ 6 大きくなったらボランの人になりたい。 ・ 2/19 おひさま文庫になりたい。(「大きくなったらなにになりたい?」と聞かれて、) ・ 2/ 7 (自分の赤ちゃんの時の写真やビデオを見ることがやっとならなくなった。以前は、今の自分と赤ちゃんの時とを別人のように考えていた。by 母親) <p>〈二年〉</p> <p>*生活の振り返り</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 5/22 ○○ちゃんがうしろにいて、僕は一人になった。(家で、学校での席替えの話) ・ 7/16 僕ね、先生に怒られたんだ。ふざけてね、ああやって、こうやって…… ・ 10/ 8 口を大きく開けるんだよ。歯を出して歌うんだよ。H先生が教えてくれて。 ・ 10/19 僕、K先生と仲良くなったんだ。 ・ 11/21 今日ね、先生がエルマーの冒険読んでくれたよ! <p>*自己評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 5/ 7 そうだよ、僕二年生だから強いんだよ。(石段を上りきり「さすがだね……」と言うと) ・ 12/ 6 お母さん100点だったよ。がんばったんだ。 ・ 2/24 だいたい一人で帰ってきたよ。 <p>〈三年〉</p> <p>*生活の振り返り</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 4/22 お母さん、これも見たんだよ、これも、これも!……真っ暗な所ね、見るんだよ……星空が火燃になったらバーンって大きな音かして、耳が痛いくらいだった。ライオンもできたよ。(家で遠足の報告) ・ 4/22 ○○君と△△君と僕と一緒に弁当を食べたよ。(遠足の報告) ・ 6/18 今日、帽子を取り上げられたんだ。(学校の報告) ・ 9/ 5 僕なんにもしていないのににらんなや君が怒ったんだよ。僕絶対なにもしていないのに。落ち着いて、って言ったのに。僕結局泣いてしまったんだ。(下校時の会話) ・ 9/ 8 朝会に出たよ。S先生と入り口の所で会って、手をつないで行ったよ。 ・ 9/21 きのおもともども叱られたの。(学校の報告) ・ 9/21 なんかわからないけど、叱られるの。(学校の報告) ・ 9/21 先生は無視しろって言うんだよ。 ・ 2/ 2 (エーデルワイスの歌) A先生から教えてもらったんだ。 <p>*他他比較</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 6/11 お母さん、S先生のここところと僕のほら、あのシャツのところと同じ、おそろいなんだよ。ほらこれ、これ、ここんところ! <p>*自己評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 10/22 うん、僕は九歳だから強いんだ。 ・ 11/16 お母さん、これみずかしくて僕できなから教えてね。(リコーダーでのシングル演奏) <p>*自己の命名</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 4/13 三年四組の○○です。よろしくお願ひします。(子ども会での自己紹介) <p>〈四年〉</p> <p>*生活の振り返り</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 4/13 おれ、ホットケーキ食べたんだ。Y先生と食べたんだ。Y先生と仲良くなったんだ!(夕ふんと思い出して) ・ 4/21 あのね、S先生と手をつないで歩いたんだ。(遠足の報告) ・ 4/21 まりえちゃんと、○○○ちゃんと、○○○ちゃんとうー、うーと、あと忘れた。(遠足の報告) ・ 6/19 席替えをしたんだ。僕のとりがまいこちゃんで、その後ろがまゆこちゃん。僕の後ろが大島君だよ。(席替えの報告) ・ 6/22 寒くて震えたんだよ。O先生のおっぱいも見ちゃった。(学校のプールの報告) ・ 7/ 2 おれ友達に言われたんだ、顔を洗わなかったらうって。 ・ 8/28 まりえちゃんの隣なんだ。(ニコニコして席替えの報告) ・ 9/ 1 今日ね、地図帳勉強したよ。秋田とかほんとにあったよ。 ・ 9/ 8 マラソンもしたよ。僕はがんばって走ったよ。 ・ 10/15 うーん、できなかった。けんかしてしまった。(「今日は学校で仲良くできたかな?」と問われて) ・ 10/26 算数のテスト100点だったよ!長方形とかのやつ。(帰宅前後) ・ 10/27 おれ6周走ったんだよ。 ・ 12/16 おれはちゃんとやってる。(「当番とか係の仕事はちゃんとやっているのかな」と問われて) ・ 12/20 今日、俺のチーム勝ったんだよ!(帰宅するなり) ・ 1/14 先生にもほめられたんだ。(夜、国語の本読みをほめると) ・ 1/31 園工で絵の具を使ったよ。スポンにもつけてしまった。 ・ 2/ 3 U先生と足し算をやったんだ。わかったよ。 ・ 2/17 おれ久しぶりに体育をしたんだ。バスケットと縄跳び。 ・ 3/ 3 俺今日、無理して体育をしたんだ。 <p>*集団の認識</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 12/17 (車中で)二組は楽しいけど、僕は一組の子なんだ。 <p>*自己の命名</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 4/30 僕は○○○です。小松島小学校の四年一組です。(旅行中のバスの中で自己紹介) <p>*自己評価(他者との比較による)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 7/14 お父さん、何メートル泳げるの? (「そうだな、100メートルくらいかな」) すこいね、僕、少ししか泳げないんだ。 ・ 3/23 五年生なんだから僕はできるよ。 <p>*自己の思考の認識</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 9/14 母さんの言っている意味が分からないよ。 ・ 9/14 これはどういふこと? わからないよ。(わからない、わかる、ということが分かってきた by 母親)
--

っている(例:二年5/7, 三年10/22, 四年3/23)。一方, 他者との比較を通した自己評価(○君よりもできない/できる)の芽生えが四年時に認められるが(例:お父さん, 何メートル泳げるの?—そうだな, 100メートルくらいかな—すごいね, 僕, 少ししか泳げないんだ7/14), 以前の自分との比較による自己評価(絶対的評価:前よりもできるようになった)は, まだ認められない。また, 評価の内容として, 自分の性格や態度に関するもの(例えば, 僕はやさしい, 怒りっぽい等)はまだ見られない。

4. 計 画

自分の計画に関するD君の言葉を記した表4からは, 三年生になると, D君が, 時間的により先のことについて(つまり, 今日のことだけでなく明日のことについても)計画を立てることができるようになっていること(例:5/30), そしてそれが, 四年生になるとよりこまやか(例:6/24)ないし見通しだったもの(今日は…して明日は…する)となっていることがわかる。また, 自分の行動に対する他者の反応を期

待する内容も見受けられる(2/24)。さらに, 今日のうちに行う行動が時間的にもよりはっきりと計画される(四年例:2/7)だけでなく, 一つではなく複数の行動が, 「…したら…する」というように系列的に見通しを含んで計画されたりしている(例:三年6/4, 四年1/18, 2/22)。

5. 他者統制

表5に見るように, 他者への要求や注意は, 既に一年時に見られるが, 三・四年時になると, 他人のありようへの注文(例:お父さん, やさしい目になって6/22・三年)や他者への提案(…すれば/…した方がいいよ。例:三年1/29, 四年5/22, 10/2)が認められる。これらの出現には, 親しい人をも第三者的に捉える力が育っていることも関係しよう。例えば, 四年の5/22に発せられた「お母さんも髪の毛を長くすれば。O先生は長くてすてきだよ」の言葉には, 他人からお母さんがすてきに思われてほしい, という気持ちが入められているのかもしれない。なお, 四年時には, 自意識の育ちを反映するような他者統制(「マラソンをお母さん応援するからね」

表4 計 画

<p><一年></p> <ul style="list-style-type: none"> 5/23 きょうね, ゆうすけくんと遊ぶ。 7/4 宿題あるんだよ。 9/8 僕バスを描くんだ。 <p><二年></p> <ul style="list-style-type: none"> 3/10 ○○君と(ガン消しで)戦うんだ! <p><三年></p> <ul style="list-style-type: none"> 5/29 うん, 言うからね。(「ありがとって先生に言ったかな」と問うと) 5/30 あした, S先生に日記を見せよう。(明日のために何かをするという, 少し遠い目標がだんだん分かってきた。以前は30分後の目標も分からないときがあった。by 母親) 6/4 ううん, おふろに入ったら帰るから。(他家からの電話) 6/12 バッ, 僕ががんばって書くから一緒に寝ようね。(日記を書いているとき) 9/3 そうだ, (学校に)僕のパズルをもって行くんだ。 <p><四年></p> <ul style="list-style-type: none"> 4/27 おれの友達くるからな。二時って約束したんだ。 6/23 いいから, 誰かに借りるから。(「箸がランドセルに入っていない」と言われて) 6/24 まいこちゃんとおつなちゃんときりえちゃんと, 僕と, みんなで養護学校に行くんだよ, 土曜日に行くんだ。 7/2 今日はクラグあるんだ!(今朝も早く起きて) 12/10 あ, そうだ。あしたノリとハサミをもっていくんだ。(夜) 12/21 あしたクリスマス会あるんだよ, プレゼントは300円だって。 1/18 これからおふろに入ってシャンプーをして, ドライヤーをしてから, 歯磨きをして, それから寝るからね。(予定をきっちりと並べてそのおりにやれるようになる。by 母親) 1/26 (以前はその日の絵で, 未完成のまま終了させることもありましたが, 4年生になって2回, 3回と分けて続けてその絵に取り組むようになった。by 絵の教室の先生) 2/7 何時から○○○の番組をみる。(新聞のテレビ欄を見て) 2/15 まだ具合が悪い。今日は休んであしたから行くから。(昨日から発熱) 2/22 久々にお父さんと一緒にご飯を食べて, クレヨンしんちゃんを見るのね。 2/24 (大空賛歌を)ピアノの先生に見せるんだ。わかるかなあ。

表5 他者統制

<p><一年></p> <p>*要求・注意</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 5/24 おかあさん迎えにきてね、門までね。(登校時) ・ 6/14 けってはだめなんだよ、さあやまりなさい。(友達同士のケンカ仲裁) ・ 11/24 シイ！静かに。(コンサート時に話しかけられて) ・ 2/21 おかあさん、うさぎさんみたいにマフラーをしていくから、出してね。 <p><三年></p> <p>*要求・注意</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 4/13 S先生にうさぎさんをプレゼントするから袋に入れて！ ・ 4/18 お母さん、ていねいに書いてね。(新しいノートに記名するとき) ・ 4/18 お母さん、絶対きてね。(授業参観に) ・ 5/14 お母さん、もっときれいな声でお話して。 ・ 6/ 3 きーちゃんは赤ちゃんじゃないから歩けるんだから降ろしなさい。 ・ 6/22 お父さん、お母さん、けんかはやめて！こわい目してるよ、お父さん、優しい目になって！(夫婦のいさかい) ・ 9/ 1 落ち着いてね。決着つけてね。(家族のいさかい) ・ 10/19 おにいちゃん、今日は貸してあげるけど、今度は貸してねって言ってから、使ってね。僕の大事なものが入っているんだから。(兄が机を勝手に使っているのを知ったとき) ・ 2/ 2 お母さん、僕A先生というんだけど、足が痛いから迎えにきて。 ・ 2/15 迎えにきて。(下校の電話) ・ 2/16 なんだった！じろじろ見るな！(小さいときのことを思い出しながら見つめたとき) <p>*提案</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 1/29 お母さん、お父さんが帰ってきたら、愛してるわよと、言った方がいいよ。(風呂で) <p><四年></p> <p>*要求・注意</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 6/ 2 ゆっくり話してよ、僕書けないんだから。(日記を書いているときに話しかけると) ・ 10/22 触れ合い、触れ合い、をして！(夫と言ひ合いの最中) ・ 11/17 恥ずかしいからやめろ。(マラソンを「お母さん応援するからね」に対して) ・ 11/17 (養護学校との交流学習の折りに、友に「大喜も負けないようにしっかりやろうな」と言われ「悪く言うな！」。by 担任) <p>*提案</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 5/22 お母さんも髪の毛を長くすれば、O先生は長くしててください。 ・ 10/ 2 お母さん、いまはお母さんが悪いからあやまった方がいいよ。(夫婦ケンカするとき) ・ 3/ 4 ひなまつりなんだからかわいくした方がいいよ。(ひな祭りの日の食事のメニューについて) 	
---	--

と言うと「恥ずかしいからやめろ」11/17)も認められる。

6. 他者認識

四年間に認められた他者認識の内容は、おおむね以下のように分類できる(表6)。

・他者の生活(行動・様子)の振り返り

その日に関わった人の行動や様子、状態などを振り返ること。三年、四年時には、他者(担任)について、その行動だけでなく心の状態まで振り返り母親に伝えることが可能となっている(例：三年6/18)。

・他者評価

他者を賞賛したり批判することであるが、三年以降では、その表現様式に幅がでてくる(例：三年5/6, 5/13, 四年4/19)。また、評価の対象も、人の容貌(四年例：9/13)、パズル、スポーツ、ファミコンなどと、広がりを見せている。四年時には、10/2のように、母親への肯定的な評価(お母さん、やさしい目のほうがすてきだ

よ)を言わば手段として、父と母の対立を和解させようと配慮したりしている。また、兄や友への賞賛には(12/21, 1/13)、自分も兄や友のように上手になりたいといった憧れのようなものを感じさせる。

・他者間の比較・評価

担任と父親を比較・評価することが、一年時から見られる(3/15)

・他者間の関係認識

父と他者が、自分と別の子とも同様の関係(すなわち友達関係)にあることに気づくことが、一年時において既に可能となっている(2/2)。ちなみに、別の子ともを自分の友達として認めることができなければ(自他関係の認識)、このような複雑な認識は不可能であろう。より簡単な形の他者間関係認識が、三年時に見られる(5/14, 7/16, 10/9)。

・他者の行動の理由の詮索

四年時に、怒った理由を母に問うているが(4/24)、このことから、自分にだけでなく他者にも

心があるということの認識 (いわゆる theory of mind), もしくは, 人の行動にはそれなりの理由があることの認識が進んでいることが示唆される。

・ 自他の関係認識

自分と他者との間の関係を「友達」として括ることが一年時 (2/2) と三年時 (4/15), 「同級

生」としてくることが四年時 (俺の同級生なんだ! 4/28) に認められる。一方, 四年時には, ダウン症の人を「自分と似ている」と認識している (例: あのお兄さん, 僕と似ているね 11/12, 11/18)。自分の顔 (自己像) についての認識も育っているであろう。なお自他関係認識

表6 他者認識

<p><一年></p> <p>*他者間の関係認識</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 2/2 (家に泊まった父の友人は) ○○君と同じだね。僕の友達だよ。 <p>*他者間の比較・評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 3/15 A先生はそんな格好しないよ, カッコいいよ。(父の着替えを見て) <p><二年></p> <p>*他者の行動の振り返り</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 10/8 K先生と一緒に歌ったよ。(学芸会の歌の練習) ・ 10/14 (ドッジボールを) ○○君と△△君とやったんだよ。 <p>*他者評価・他者観察</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 8/31 だいじょうぶ, K先生がいるから。先生は強いよ。(「ひどい雨で学校はだいじょうぶかな」と聞かれて) ・ 10/4 よして君のお兄ちゃんは上手だよ, 大きくて強くて。(ドッジボールの報告) ・ 10/8 (K先生は歌が) 上手だったよ。(学芸会の歌の練習の報告) ・ 10/19 先生, 時々こわい目になることもあるよ。 ・ 3/10 ○○君は(ガン消し)を……個もっているんだよ。 <p><三年></p> <p>*他者観察・他者評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 4/18 K先生は舌をこするのが上手なんだよ。(お風呂での会話) ・ 5/6 おかあさんたら, 寝てばかりいるんだもの。あきれてしまふよ! (ハイキングで眠たそうにしていると) ・ 5/13 お母さん天才だね! だって見ただけで歌うんだもの。(譜面を見て歌うと) ・ 5/14 お母さん, どうしてこわい目してるの。 ・ 5/22 僕なんか三行書いたのに, お母さんはまだ書いてない! (日記を書いているとき) ・ 6/18 今日ね, 先生ね, ツノを出したんだよ。 ・ 6/18 S先生しょんぼりしてた, さみしそうだったよ。 ・ 11/5 うん, 元気だよ。(「S先生元気だった?」と問われて) ・ 11/10 (パズル) 300ピースなんだよ。仲良しのクラスの子がこうやるんだよ。 <p>*他者間比較・関係認識</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 5/14 S先生! (「びゅんびゅんごまがまわったら」の絵本に出てくる先生は?と問われて) ・ 7/16 お母さん, S先生とKさんとお友達なんだって。 ・ 10/9 おにいちゃん, ひかるげんじみみたいだね。 <p>*他者の行動の振り返り</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 4/22 K先生は眠ってたんだよ。(遠足の報告) ・ 4/22 先生は, 先生同士で食べたんだよ。(遠足報告) <p>*自他関係認識</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 4/15 友達を紹介します。(高学年の子を連れ帰宅して) <p><四年></p> <p>*他者の行動の振り返り</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 8/28 先生が戦争の悲しい話をしてくれたよ。 <p>*他者観察・他者評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 4/19 だめ! いっつも怒ってばかりいるのはだめ。(「私がジャイアンのお母さんになろうか」と言う時) ・ 4/27 もちろん! こんなに目がつりあがって角が二本あるんだ。(先生のこと) ・ 7/17 大島君は大きいから歯医者へ行っても泣かないよ。 ・ 9/13 Kさん(母親の友達)ね, 口紅ぬってさ, 美人だったよ。 ・ 9/29 O先生, 鼻声だったよ。 ・ 10/2 お母さん, やさしい目のほうがすきだよ。(夫婦ケンカの時) ・ 12/21 お兄ちゃんプロだね。今度からファミコンのプロと呼ばせてもらう。(兄とファミコン) ・ 1/13 あの人は下手だ。あの人は超うまい。プロだったぜ。(スケート教室の報告) <p>*他者の行動の理由の詮索</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 4/24 お母さん, なんでおこったの? (昨夜夫婦ケンカ) <p>*自他の関係認識</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 4/28 おれの同級生なんだ! (家に友達が来たとき) ・ 5/31 閉めるな! (まりえちゃん, のりこちゃんは) 僕のためものなんだぞ! ・ 11/12 あのお兄さん, 僕と似ているね。(区役所でダウン症の青年とすれ違ったとき) ・ 11/18 交流学習があったよ。僕とそっくりの子がいたんだ。(養護学校との交流学習の報告) ・ 12/14 しゅん君ちでもカレーなんだって。

心があるということの認識(いわゆるtheory of mind),もしくは,人の行動にはそれなりの理由があることの認識が進んでいることが示唆される。

・自他の関係認識

自分と他者との間の関係を「友達」として括ることが一年時(2/2)と三年時(4/15),「同級

生」としてくることが四年時(俺の同級生なんだ!4/28)に認められる。一方,四年時には,ダウン症の人を「自分と似ている」と認識している(例:あのお兄さん,僕と似ているね11/12,11/18)。自分の顔(自己像)についての認識も育っているであろう。なお自他関係認識

表6 他者認識

<p>〈一年〉</p> <p>*他者間の関係認識</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 2/2 (家に泊まった父の友人は)○○君と同じだね。僕の友達だよ。 <p>*他者間の比較・評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 3/15 A先生はそんな格好しないよ,かっこいいよ。(父の着替えを見て) <p>〈二年〉</p> <p>*他者の行動の振り返り</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 10/8 K先生は一緒に歌ったよ。(学芸会の歌の練習) ・ 10/14 (ドッジボールを)○○君と△△君とやったんだよ。 <p>*他者評価・他者観察</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 8/31 だいじょうぶ, K先生がいるから。先生は強いよ。(「ひどい雨で学校はだいじょうぶかな」と聞かれて) ・ 10/4 よしてる君のお兄ちゃんは上手だよ,大きくて強くて。(ドッジボールの報告) ・ 10/8 (K先生は歌が)上手だったよ。(学芸会の歌の練習の報告) ・ 10/19 先生,時々こわい目になることもあるよ。 ・ 3/10 ○○君は(ガン消し)を……個もっているんだよ。 <p>〈三年〉</p> <p>*他者観察・他者評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 4/18 K先生は舌をこうするのが上手なんだよ。(おふろでの会話) ・ 5/6 おかあさんたら,寝てばかりいるんだもの。あきれてしまっようよ!(ハイキングで眠たそうにしていると) ・ 5/13 お母さん天才だね!だって見ただけで歌うんだもの。(譜面を見て歌うと) ・ 5/14 お母さん, どうしてこわい目してるの。 ・ 5/22 僕なんか三行書いたのに,お母さんはまだ書いてない!(日記を書いているとき) ・ 6/18 今日ね,先生ね,ツノを出したんだよ。 ・ 6/18 S先生しょんぼりしてた,さみしそうだったよ。 ・ 11/5 うん,元気だよ。(「S先生元気だった?」と問われて) ・ 11/10 (バスル)300ピースなんだよ。仲良しのクラスの子がこうやるんだよ。 <p>*他者間比較・関係認識</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 5/14 S先生!(「びゅんびゅんごまがまわったら」の絵本に出てくる先生は?と問われて) ・ 7/16 お母さん, S先生とKさんとお友達なんだって。 ・ 10/9 おにいちゃん, ひかるげんじみたいだね。 <p>*他者の行動の振り返り</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 4/22 K先生は眠ってたんだよ。(遠足の報告) ・ 4/22 先生は,先生同士で食べたんだよ。(遠足報告) <p>*自他関係認識</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 4/15 友達を紹介します。(高学年の子を連れ帰宅して) <p>〈四年〉</p> <p>*他者の行動の振り返り</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 8/28 先生が戦争の悲しい話をしてくれたよ。 <p>*他者観察・他者評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 4/19 だめ!いっつも怒ってばかりいるのはだめ。(「私がジャイアンのお母さんになろうか」と言うと) ・ 4/27 もちろん!こんなに目がつりあがって角が二本あるんだ。(先生のこと) ・ 7/17 大島君は大きいから歯医者へ行って泣かないよ。 ・ 9/13 Kさん(母親の友達)ね,口紅ぬってさ,美人だったよ。 ・ 9/29 O先生,鼻声だったよ。 ・ 10/2 お母さん,やさしい目のほうがすてきだよ。(夫婦ケンカするとき) ・ 12/21 お兄ちゃんプロだね。今度からファミコンのプロと呼ばせてもらう。(兄とファミコン) ・ 1/13 あの人は下手だ。あの人は超うまい。プロだったぜ。(スケート教室の報告) <p>*他者の行動の理由の詮索</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 4/24 お母さん,なんでおこったの?(昨夜夫婦ケンカ) <p>*自他の関係認識</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 4/28 おれの同級生なんだ!(家に友達が来たとき) ・ 5/31 閉めるな!(まりえちゃん,のりこちゃんは)僕のためものなんだぞ! ・ 11/12 あのお兄さん,僕と似ているね。(区役所でダウン症の青年とすれ違ったとき) ・ 11/18 交流学習があったよ。僕とそっくりの子がいたんだ。(養護学校との交流学習の報告) ・ 12/14 しゅん君ちでもカレーなんだって。

感情は、大きく自我感情と社会的感情（主として、他者に関する感情）に分けられ、表7に見るように、その表現の仕方をも含めて、いずれも一年の時から豊かに発達していることがうかがわれる。

一年時において、自我感情では感覚レベルのもの(2/19, 3/22), 自慢(11/6), 反省(1/31), 課題の値踏み(計算か, むずかしいな2/13)などが認められ, 他者感情としては謝意(5/23), 好意(11/1, 2/13), 同情(A先生, かわいそうに12/6)などが認められる。他者への攻撃めいた言葉もみられるが, これは相手への真の悪意から出たものではなく, むしろ好意や信頼によるものと解釈した方が良さそうである(10/3)。

二年時では, 自我感情として恐れ(7/12)や共感(7/12)などが, また他者感情として他者への思いやり(〇〇に…してあげる/あげたい12/21, 2/17)が見られる。なお思いやりを示す言葉は, 三年, 四年時においてより多く記されている(三年4/13, ここすべるから気をつけてね4/18, 4/22, 11/16, 1/22, 2/11, 四年4/24, 4/26, 6/8)。

三年になると, 自我感情では, 不満, 反抗・自己主張(4/17, 5/9), 嘆き(あきれてしまうよ5/6), 照れ(6/25), 期待(先生これ見て笑うかな5/19, 5/22, 1/26)などが見られる。こうして, 他者へ自己の気持ちをより強く訴えようとする感情(…なのに)や, 「他者の眼差し」を意識した感情(照れ)が出現している。他者感情としては, 好意(5/22, 6/27), 同情(9/21)などが認められる。

四年では, 自我感情として孤独感(ひとりばっち。さみしかったです9/4), 不機嫌(6/16), 楽しさ(4/21)や悲しさ(10/29), 恥じ(4/15), 不安(4/16), 不満, 競争心(8/30), 自慢, 意向(…したい), プライド(6/24)などが, 他者感情としては好意(1/29), 批判(5/12, 7/19), 謝意(10/5), 励まし(7/12, 11/10)などが認められる。

8. その他の領域

二年時に, 天気予報や, 日付・曜日などの時間に関する興味が膨らみ, 三年時になると, 西暦年にも興味を示す(例: 学校に行ったっけね, 1993年って書いてあったの1/22)。また, 四年時には, 計算(掛け算, 割り算)や漢字への興味が深まり, 漢字でどう書くの? という質問が多くなる。なお, これら以外にも, 絵本, 昔話, サッカーなど, D君が実に多くのことに対して興味を膨らませながら四年間を過ごしていることが, 連絡帳からうかがわれた。

一方, 表8に見るように, 三年・四年生時において, 自分の行動も含めて(4年7/14), 様々なことがらに対する認識が豊かになっているようである。また母親は, 四年時の1/25に, 隣にじっと座って老人にあやとりを教えてもらっているD君について, 「教えてもらうことに素直に従えるようになった」と記している。例えば「教えてもらうと, 自分のできることが増える」というように, 教わることの意味をD君なりに理解しつつあったということであろう。あるい

表8 認識(自己認識・他者認識を除く)

<三年>

- ・ 4/30 お母さん, あした学校は休みなんだって, 先生が言ってたよ。緑の日なんだって。
- ・ 6/27 (「学校って何をする所?」勉強!)
- ・ 11/16 (しりとりで母親が「ろうまじ」と言う)と) じんぐうてるお……かいじゅうたちのいるところ, だろ……モーリスセンダックだろ。(注: 神宮輝夫は, センダック著の「かいじゅうたちのいるところ」の訳者)
- ・ 11/18 (しりとりに: 母親が「かんじ」と言う)と) じんぎ (注: 絵本「サーカスのライオン」のらいおん)
- ・ 1/26 (枝と葉っぱがついたミカンをいただいて) お母さん, みかんって木になっていたんだ! にいちゃん, 知ってた? みかんって木になってるんだよ。

<四年>

- ・ 5/22 ボールは足の広いところで蹴るんだよ。ドリブルもヘディングもあるんだ。(サッカー用語がたくさん出てくるようになった。by 母親)
- ・ 5/27 (季節をしっかりとわかるようになって来た)
- ・ 6/21 (サッカー) 11人でやるんだよ。スローインはこうするんだ。
- ・ 6/22 (学校のプール) 横からも上からもシャワーが出るんだよ
- ・ 7/14 (水泳) まずもぐって, それから泳いで, 向こうの岸にタッチしたらまたもどってくるんだよ。

は、自分が興味をもつことが上手にできる人に対して、尊敬心のようなものを抱けるようになったということかもしれない。

9. ま と め

以上のように、本研究では、これまで特定領域との関連でのみ、また健常児との比較において横断的にしか明らかにされることのなかったダウン症児の内面について、一人のダウン症児についてではあるが、連絡帳に母親が記した言葉を手がかりとして多面的かつ発達的に捉えることができた。

このことは、言葉を手がかりとしての内面解釈が筆者の主観によらざるを得なかったこと、言葉を手がかりとして解釈した内面が、D君の実際の内面と必ずしも一致しない場合があったかもしれないことなど、今回用いられた方法にはいくつかの問題が含まれていたにもかかわらず、それが内面を発達的に把握するための一つの有効な方法になり得ることを示唆している。

筆者は今後、小学校高学年をへて思春期に入っていく中で、今回明らかにした領域はもちろんのこと、例えば価値観などの、今回捉えられなかった領域についても、どのように形成されていくのか、またそれらの形成に種々の要因(養護学校と普通学校の経験の質の違い。親の関わりかたなど)がどのように関係しているのか、明らかにしたいと考えている。ちなみに、D君は、「自分と同じ顔の人」としてダウン症児を感じているが、これは、自己のダウン症という障害の認識の第一歩と言えるかもしれない。また、障害児・者による地域的活動への参加や、自宅の子ども文庫を訪れる別のダウン症児との出会いを通して、D君は自己の障害をどのように認識し、またそれを乗り越えていくのであろうか。また、D君自身は、どのような障害児(者)観を形成していくのであろうか。このような問題の検討も含めながら、D君の内面形成をこれからも引き続き追究していくうえで、母親が書き続けている連絡帳を今後も見せていただき、そこに記されたD君の言葉を分析することは、やはり欠かせないであろう。

一方、D君のどの内面領域も、一年生から突然形成され始めたわけではなく、既に就学前においてその形成はある程度進んでいたはずである。その過程を捉えるうえで、幼稚園で用いられた連絡帳の分析が役立つであろう。

ともあれ、本研究の結果は、子どもの言葉についての詳細かつ正確な記録の積み重ねが、その内面のありようや発達を把握するのに役立つ得ること、その貴重な手がかりとなり得ることを、示唆している。このような積み重ねは、教育実践上も重要なことであろう。

今日、ダウン症児が受ける経験は、子どもにより実に多様である。ちなみに、D君の内面の発達には、日常生活における経験の豊かさが大きく関与していると思われる。そして、その豊かさをもたらすためにもっとも大きな力を発揮していたのは、母親である。母親は、D君が幼いころから、D君がたくさんの絵本やその登場人物と出会えることや、「教えること」よりは「一緒に楽しく遊ぶこと」を心がけている。自分の家を子ども文庫として開放したことで、D君が近所の子どもたち(クラスメートを含む)や大人と関わる機会が豊富にもたらされている。各学年の始め、「障害児は初めて。しかも排泄の処理に問題があるダウン症児では…」ということで戸惑う担任に、D君のことをそれまでの育ちも含めてしっかり伝えることで安心感を与えている。また自分の考えや悩みを素直に打ち明けることで、担任自身もまた親に心を開いている。こうして、学校生活を通してのD君の内面発達にとりきわめて大切な親と教師の信頼関係を築くべく努力したのも、母親であった。

一方、ダウン症児の中には、専門的な療育経験はたくさんあるものの地域での経験(例えば、友達との遊び。買い物)や親との楽しいやり取りがきわめて乏しい子どももいる。学校と家庭以外に、友達の家に行ったり、地域的活動(例えば、おもちゃ図書館や公民館主催の青年教室)に参加したりする機会がまったくないダウン症児もいる。このように様々な生き方、経験の仕方をするダウン症児たちについて、その内面の形成にどのような違いが認められるか検討する

ことも、ダウン症児、さらにはダウン症児を含む精神遅滞児への援助や教育、福祉の在り方を考える上で欠かせないだろう。

IV. 結 語

本研究では、学級担任との連絡帳に母親が記した子どもの言葉を手がかりとして、ダウン症児における内面の発達を明らかにすることを試み、その結果、小学校一年生から四年生までの四年間における一人のダウン症児の内面として自己統制、自立、自己認識、計画、他者統制、他者認識、感情などの領域を捉えることができた。また、それらの領域について、以下のような発達傾向を認めることができた。

自己統制において、一年時には①負の感情を自ら乗り越えようとする自己統制、②自分の成長についての認識に支えられた自己統制、③行動の判断を他者に委ねようとする言わば他律的な自己統制が既に認められ、二年時には、それらに加えて④他者を意識した自己統制が認められた。さらに三年時には、⑤したい行動を先延ばしして別の行動に取り組もうとする自己統制と⑥遊びのルールに従おうとしての自己統制が、そして四年時になると⑦役割を意識した自己統制が、それぞれ新たに認められた。

自立については、一年生の時には母親を自分から遠ざけようとしたが、四年生時には、一人で留守番をできたり、母親から自分が離れようとしたりするようになっていた。

自己認識は、四年間に、生活の振り返り、成長の意識、自己評価、時間軸への自己の位置づけ、自己の命名、自己の社会的位置の認識、自己の思考の自覚などが認められ、また生活の振り返り、自己評価には、四年間における変化も確認できた。

計画については、学年を経るにつれて、時間的により先のことまで、またよりこまやかに見通しだてて、計画することが可能となっていた。

他者統制に関して、三年、四年になると、一方的な要求だけでなく、相手の決定権を尊重した提案が多く見られるようになった。

他者認識として、四年間に、他者の生活の振り返り、他者評価、他者間の比較・評価、他者間の関係認識、他者の行動の理由の詮索、自己の関係認識が認められた。

感情は大きく自我感情と社会的感情（主に、他者に関する感情）に分けられるが、四年生の時点で、自我感情として孤独感、悲しさ、恥じ、不安（4/16）、競争心、自慢、意向（…したい）などが認められた。他者感情として励まし、批判、謝意などが認められた。そして、双方の感情が一年生以降豊かに分化・発達していることも確認できた。

また、本研究で用いられた研究法の有効性が、ダウン症児の内面に関する今後の研究課題とともに論じられた。

謝辞：障害をもつ子どもにとり、豊かな生活、豊かな発達とはどのようなものか、という問いへの答となりうるような示唆をいつも与えてくれるD君、そして、子どもの内面把握という方法的にも困難な研究テーマへの筆者の取り組みのために連絡帳を快く貸して下さったD君のお母様に、心から感謝します。

文 献

- 1) 別府 哲 (1993) 「自閉症児の発達と内面の育ち」 みんなのねがい、全国障害者問題研究会出版部、10～15p.
- 2) 清水美智子 (1994) 「こころが育っていく過程」を見る 聴覚障害、517、36～41p.
- 3) Kernan, Keith, and Sabsay Sharon. (1989) 「Communication in Social Interactions: Aspects of an Ethnography of Communication of Mildly Mentally Handicapped Adults」 Michael Beveridge, Gina Conti-Ramsden and Ivan Leudar (eds) Language and Communication in Mentally Handicapped People. Chapman and Hall, 229～253p.
- 4) 今野和夫 (1988) ダウン症児における初期のごっこ遊びの発達 秋田大学教育学部研究紀要教育科学、第38集、11-33p.